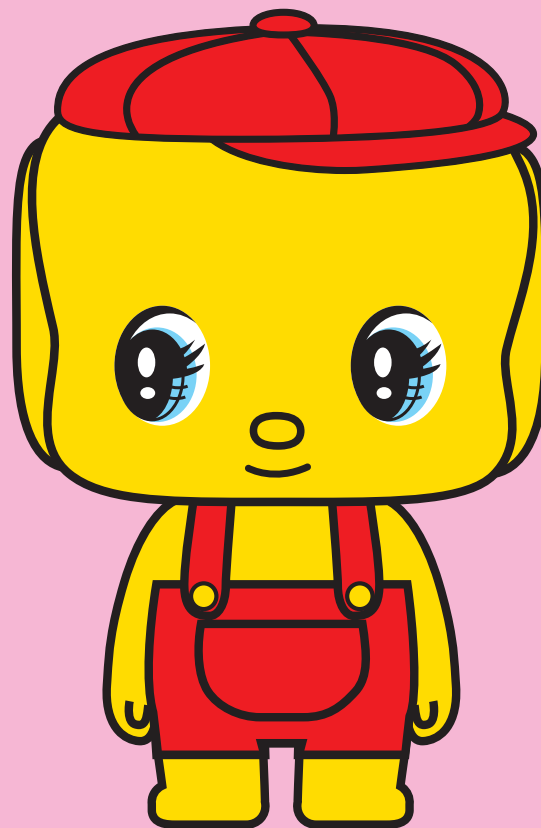


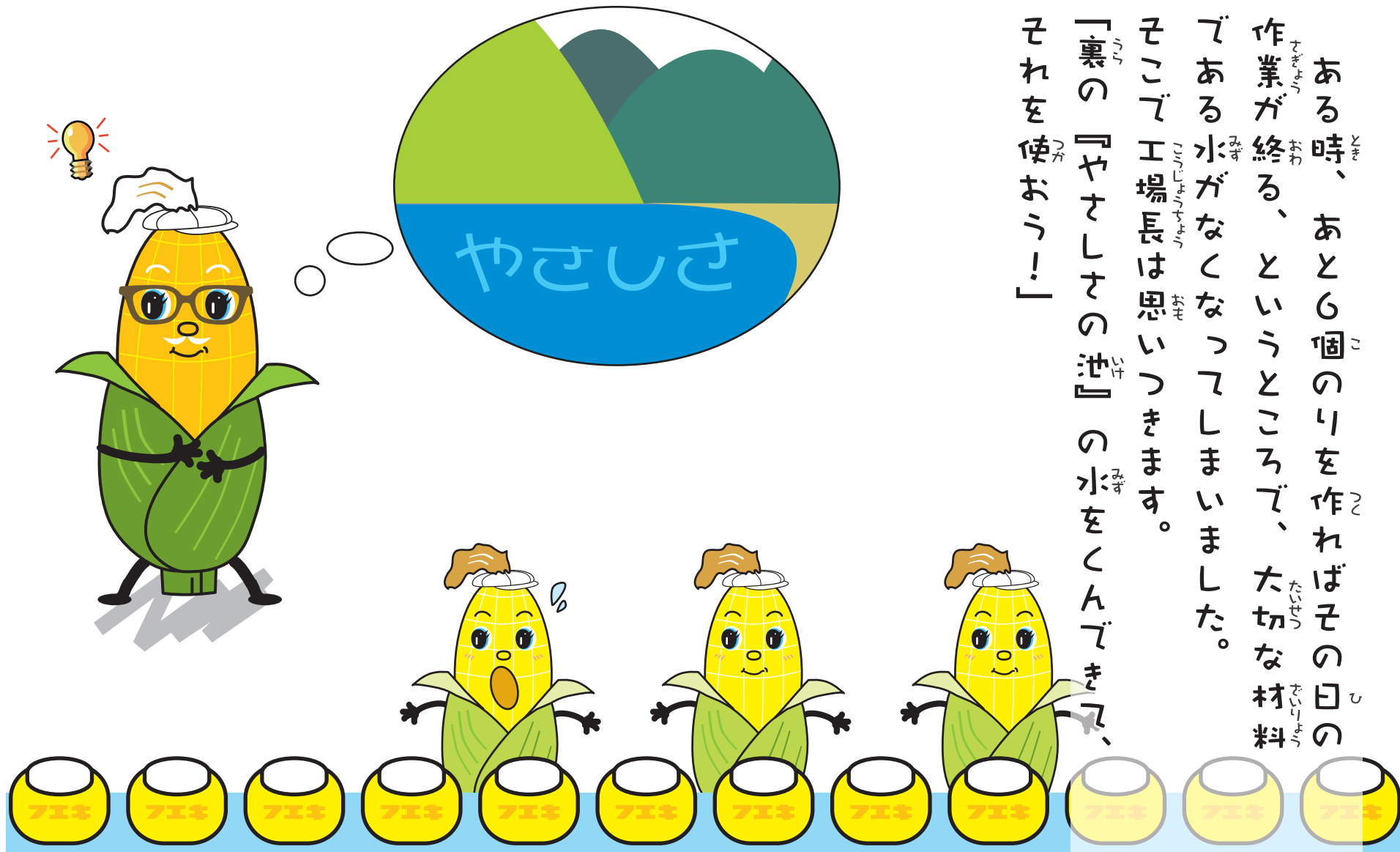
フエキくんのおはなし



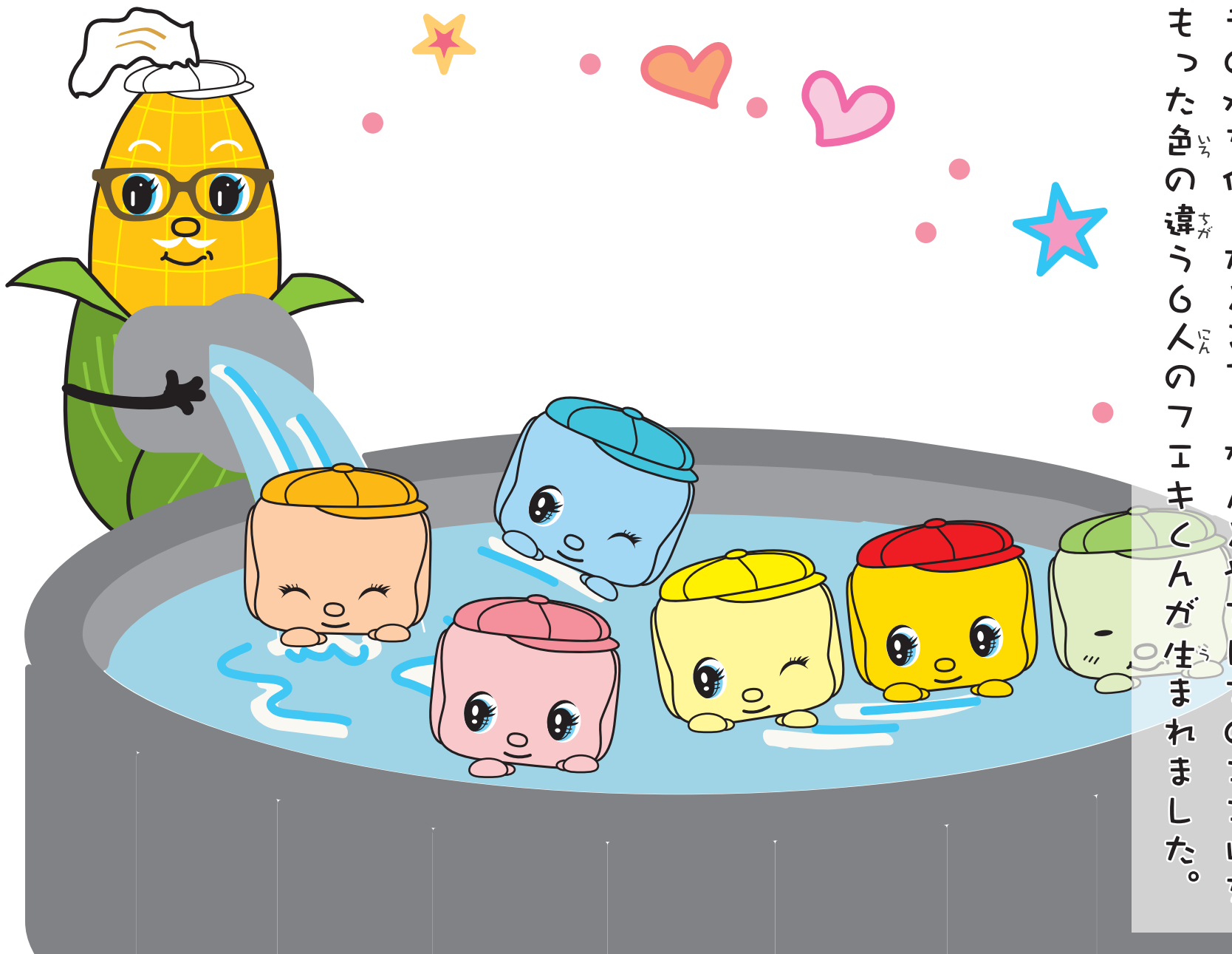
いつもいっしょですよ。



とある街はずれにあるトウモロコシ畑の中に、
のり工場がありました。
そこでは、工場長をはじめとするトウモロコシ達
毎日せっせと、トトとトトの心をくつつけるのりを
作っていました。

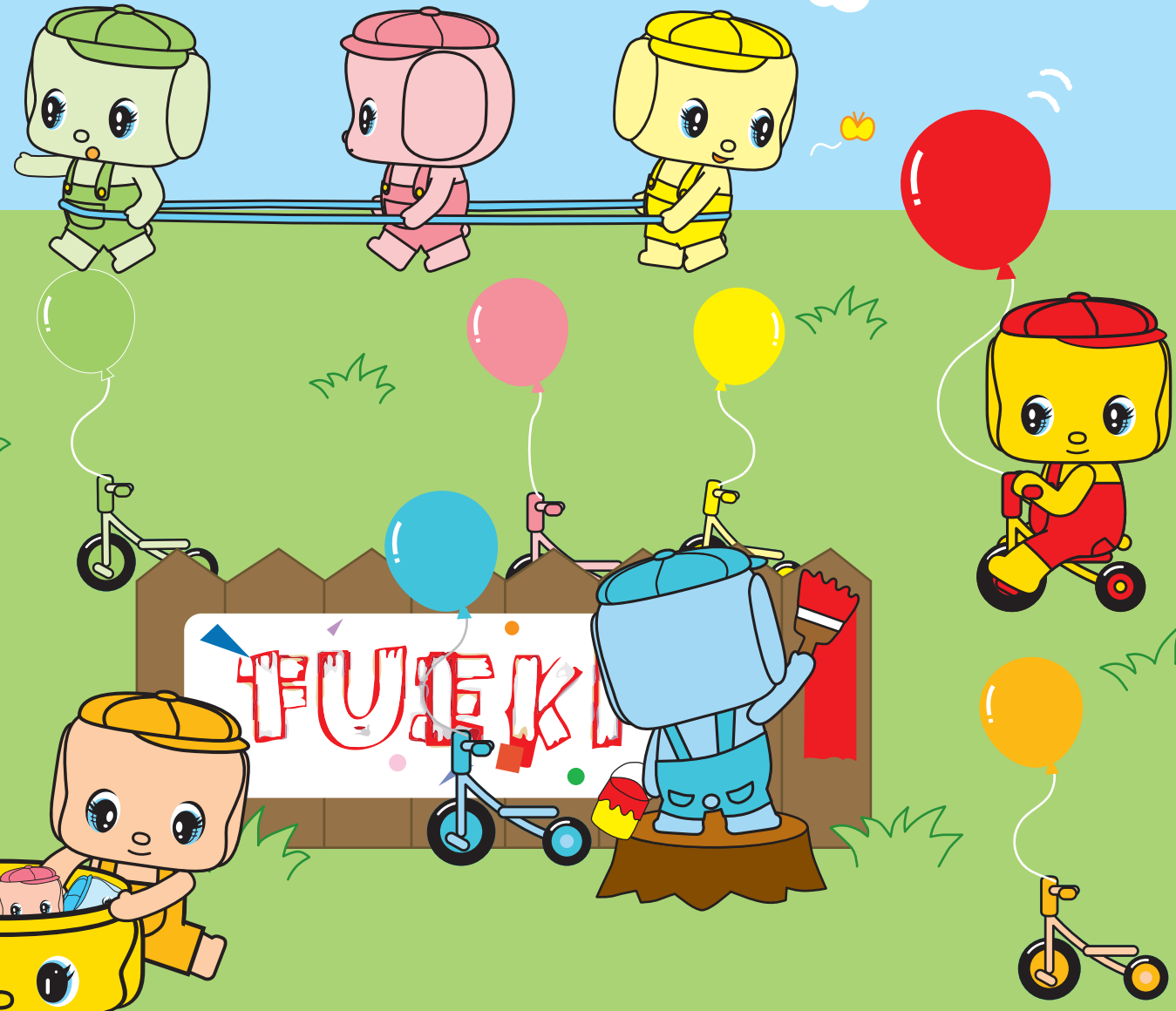


ある時、あと6個のりを作ればその日の
作業が終る、というところで、大切な材料
である水がなくなってしまうました。
そこで工場長は思いつきます。
「裏の『ヤサシ』の池の水をくんできて、
それを使おう！」



一人のとうもろこしがせっせと氷をくんできました。
その水を使ったところ、なんとやさしさのココロを
もった色の違う6人のフェイクくんが生まれました。

彼らは、毎日工場のお手伝いをしたり、工場長から貰ったみんなおそろいの、お気に入りのフォーセンがついた三輪車で遊んだり、よく食べる、よく寝る。色々違うと仲良く仲良く暮らしていました。



そんなある日、どこからか急につよい風が吹きました。幸いなことに、トウモロコシ畑や工場に被害はありませんでしたが、一人のフェイクマンのフーセンが飛ばされてしまいました。



「なんとしてもおのファーセンを取り戻すですよ！」
フェイクくんは一人でとつさに追いかけていきました。
そんなフェイクくんを見て、みんなは心配し後に続きます。
こうして6人はファーセンを取り戻す旅に出たのでした。





フエキくん達はフーセンを追いかけ、三輪車を走らせませす。
キコキコ、キコキコ走らせると、ついにトウモロコシ畑から
外に出てしまいました。しかし、フエキくんは止まりません。
どこまでも続く道を6人のフエキくんは、ずっとずっと
フーセンを追いかけ、三輪車を走らせるのでした。

う ゑ ー ー ー

